



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
12月号
2020.12.25発行

片付けは、『自分の軸づくり』につながる

校長 海 頭 巖

京都の清水寺で、先日発表された今年の漢字一文字は『密』でした。「予想どおりだったのでは？」とにかく今年の一年間は『コロナに始まりコロナで終わる』の世の中でした。私たちの生活も様変わりし、マスク着用・手洗いの励行・ソーシャルディスタンスなどは当たり前になりました。でも『コロナ禍』だからこそ『新しい生活様式』ということで、これまでの生活を見つめ直し、ムダやムラをなくす努力もしてきたように思えます。

今年最後の『明日のための掲示板』は次の内容でした。

片付けは、『自分の軸づくり』につながる

今年もあとわずかになってきました。年の瀬の大掃除や片付けの時期がやってきます。『今年の汚れは、今年のうちに・・・』ですね。

さて、『片付け』って『いらない物を捨てるとか、部屋をきれいにする』といった意味で使われますね。でも「これが必要だ。これいいな。」と思うものを残していく中で、自分はどうかあるかとか、自分の考えを明らかにする、『自分の軸づくり』につながっていくような気がします。自分にとって本当に必要なものを選んでいく中で『未来の自分』『こういたい自分』のイメージも固まってくるのかも知れませんね。そんな思いで年末の『片付け』をしてみてもいいですか・・・。

ご家庭でも年末の大掃除の時の参考にしてみてもいいでしょうか。『未来のわが家』『こういたいわが家』のイメージが固まるかも知れませんよ。

実は、これは『藤山中』にもあてはまることなのです。『コロナ禍』ということで、卒業式・体育祭・文化祭をはじめ、たくさんの行事の見直しを迫られ縮小したものや残念なことに修学旅行・自然教室・社会見学、職場体験学習など中止せざるを得ない行事もありました。現在は『新しい生活様式』ならぬ『新しい学校生活』を真剣に考える時期なのかも知れません。『コロナ禍』というピンチをチャンスと捉えて、『未来の藤山中』『こういたい藤山中』の構築を学校・家庭・地域の連携と協力で手がけていきましょう。

さて、12月13日（日）放送のNHK大河ドラマ『麒麟がくる』を見ていたら、帝（正親町天皇）と明智光秀との会話のシーンで『渡水復渡水、看花還看花、春風江上路、不覺到君家』の漢詩が詠まれました。これは「何度も何度も川を渡る道すがら、花を見、さらに咲きほこるあたりの花を見る。春風そよぐ江（かわ）のほとりの路をゆくと、いつの間にか君の家にとどり着いてしまった。」といった意味です。何と穏やかな心地になれる味わいのある詩なのではないでしょうか。戦国の世が一日も早く治まり、この詩のような平穏な世の中になってほしいとの願いを込めてこの詩が詠まれたのでしょうか。

今はまさに『コロナの世』。目に見えない敵と闘っています。ある意味『戦国の世』なのかも知れません。『コロナ禍』の終わりが一日も早く訪れ、安心・安全で平穏な世の中がまた戻ってくることを願って止みません。今年もたいへんお世話になりました。ありがとうございました。よい年をお迎えください。